



Vol.39

ゆうことみゆきのふくふくトーク ソノコ de ソノコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソノコ(=お便り)形式で
語り合います。

イラスト/安田千夏

カムイユカラ(神謡)



「アイヌの物語はユーカーラとい
うんですよ。」って、よく訊かれま

す。たしかにユカラ(英雄叙事詩)は有名だ
けど、実際にはアイヌの物語のジャンルの一
つにすぎません。たとえば、ユカラの主人公
は超美形の少年で、空をも飛べるスーパ
ーマンだけど、実は人間。それに対して、白老
や二風谷辺りでカムイユカラと呼ばれる物
語(神謡)の主人公の多くは、自然界のカ
ムイ(神)たち。描かれる世界も全然違う
のです。カムイユカラではそれぞれの物語
ごとにシンプルなメロディーが付いてるの
で、語られるというより、謡われるという
方がいかな。一番の特徴は、サケへとい
う繰り返すことばが、何度も何度も出てくる

ことですね。つまり、ユカラとカムイユカラ
は、名前はちよつと似てるけど、まったく別
の物語のジャンルなのです。まず、ここが大
事なポイント！

カムイユカラに登場するカムイは本当に
様々。森で一番位の高いクマの神はもちろ
ん、キツネ、タヌキ、なぜか霊力が強いとさ
れるオコジヨ…。鳥では、村を守るシマフク
ロウの神を筆頭に、ワシ、カケス、カラス、カ
ツコウ。さらには、クジャクともいわれる謎
のケソラブ(斑紋鳥)や巨大な怪鳥フリ。海
では、沖の神として尊敬されるシャチ、メカ
ジキ、サメ、ヒラメ…。カンナカムイ(龍神
雷神)が猛威を振るうかと思えば、カエル
やセミもれつきとしたカムイとして登場。
カムイユカラって、アイヌの世界観を知る
ための教科書だよ、美幸さん。



うん、カムイと人間、それ

ぞれのあるべき姿を教えて
くれるよね。大切なこと、あたり前
のこと、道理や知恵といったさまざ
まな考え、精神世界を物語から
見ることが出来るよね。

カムイユカラといえば『アイヌ神
謡集』を思い浮かべる人は多いよ
ね。「シロカニベ ランラン ピシカン、
コンカニベ ランラン ピシカン(銀の



※ <http://www.ainu-museum.or.jp/>

られるというような物語
をはじめ、いろいろなカム
イのお話を聞くことがで
きるの。また、囲炉裏を
囲んでアイヌ語の物語を
聞く「オルシペ アヌロー」
も実施中。博物館でアイ
ヌの物語世界を楽しんで
みてはいかがでしょう。詳
しくはホームページ(※)に
アクセスを！

滴降る降るまわりに、金の滴降る降るまわ
りに)』というサケへで語られるお話など、十
三編のカムイユカラが収められているの。著
者は大正十一年、十九歳という若さでその生
涯を閉じられた知里幸恵さん。自らも物語
の語り手であり、神謡集では口碑のアイヌ語
をローマ字で表記し、日本語訳が付けられて
いるの。その美しい日本語の表現から、刊行
されて九十年以上たった現在、最も高い評価を
うけている一冊。神謡集の世界をもっと知り
たい方には登別市にある「知里幸恵 銀のし
ずく記念館」がおすすめです。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族博物館専務理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■安田千夏(やすだちか):神戸市生まれ。元アイヌ民族博物館学芸員。現在は同館でアイヌ若手育成事業の自然講座講師を務める。